

肺炎球菌ワクチン接種に関する情報提供の必要性

長崎腎病院

○植木秀一 米田千恵子 下田美智子 久保純子 白井美千代 丸山祐子
澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【背景】

肺炎は死因の第3位であり、透析患者の死因の第2位にも感染症が挙げられている。現在肺炎球菌ワクチン接種はほとんどの自治体で公費助成となっており、日本透析医学会のガイドラインにおいても推奨されている。

【目的】

当院維持透析患者に2種類の肺炎球菌ワクチン（PCV13;プレベナー、PPV23 ;ニューモバックス）接種を推奨し、患者意識を解析する。

【対象】

当院の60歳以上の外来透析患者242名中、有効回答が得られた患者204名。

【方法】

肺炎球菌ワクチン接種の必要性についての説明を行い、ワクチンに関する認知状況の聞き取り調査及び接種希望の有無を調査し、患者意識を解析した。

【結果】

対象患者の平均年齢は71.3歳であり、ワクチン接種を希望する患者173名、希望しない患者31名であった。推奨前に接種したのは3名のみであったが、情報提供したことで急増した。本年度PPV23公費助成対象者は102名で、希望者は70名、うち希望者の28名が、60～65歳と若い傾向にあった。

【考察】

透析患者の肺炎球菌ワクチンに対する関心度は若年でより高く、公費助成制度により接種の実施向上に貢献する可能性がある。高齢患者の健康維持・増進を図る為には、家族への情報提供や指導を行うことも有効であると考えられる。